

ブロンズラル^R・グレーラル^R・グリーンラル

JIS R 3208 熱線吸収板ガラス



中央三井信託銀行新宿本店（東京・港区）/ グレーラル

熱線吸収
板ガラス
ブロンズラル・
グリーンラル・
グレーラル

熱線吸収板ガラスは、通常のガラスの原料に微量の鉄、ニッケル、コバルトなどの金属を加え着色した板ガラスです。透明な板ガラスに比べ、より多く太陽の日射エネルギーを吸収し、赤外線や可視光線、紫外線などの透過を適度におさえる性能を持っています。そのため、冷房負荷を軽減し快適な室内環境をつくりだします。

特長

日射エネルギーの遮断

日射エネルギーを吸収するので、夏季の冷房負荷を軽減します。

参照 P 172 「板ガラスの日射エネルギー収支比」

防眩性

可視光線をより多く吸収するため、眩しさをやわらげます。

変色、褪色の軽減

フロート板ガラスに比べて紫外線をより多くカットするため、家具などの変色、褪色を軽減します。グリーンラルは他の2品種と比べて紫外線カットの性能がすぐれています。

参照 P 153 「各種板ガラスの光学特性・熱的性能」

熱線吸収板ガラス特有のカラーを生かすことで、建築物や周辺環境の調和がはかれます。特にグリーンラルは新鮮で爽やかなイメージをもったガラスです。

主な用途

- 一般建築物、高層建築物の外装。
- 各種ガラススクリーン。
- ショーケースなどディスプレイ什器。
- 家具、間仕切など。

品種・仕様

品 種		呼び厚さ	最大寸法 (mm)		
熱線吸収板ガラス	ブロンズラル グレーラル	3ミリ	1,829×914、1,676×1,219		
		5ミリ	3,658×2,438		
		6ミリ	4,267×2,921		
		8ミリ	4,572×2,921		
		10ミリ 12ミリ	6,096×2,921		
		15ミリ			
	グリーンラル	3ミリ	2,438×1,829		
		5ミリ 6ミリ	3,658×2,438		
		8ミリ 10ミリ 12ミリ		4,572×2,921	
		網入磨線入磨	ブロンズ菱形ワイヤー グレー菱形ワイヤー	6.8ミリ	2,438×1,829
		網入磨線入磨	パラブロンズ パラグレー	6.8ミリ	2,438×1,829

最大寸法を超える場合には、弊社支店までお問い合わせください。



ブロンズラル



グレーラル



グリーンラル

印刷のため、実物の色と多少異なります。



神戸海岸ビル(神戸市) / グレーラル

熱線吸収板ガラスの標準施工法

シーリング材は、良質の弾性シーリング材（シリコーン系、ポリサルファイド系）をご使用ください。

バックアップ材は、発泡ポリエチレンまたはクロロプレンゴムをご使用ください。

セッティングブロックは、クロロプレンゴム（硬度90°）を下辺に2個ご使用ください。

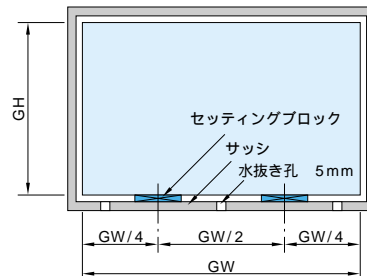
グレイジングガスケットは、耐久性のすぐれたものをご使用ください。

熱線吸収網入板ガラス、熱線吸収線入板ガラスは、P69の「網入、線入板ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。

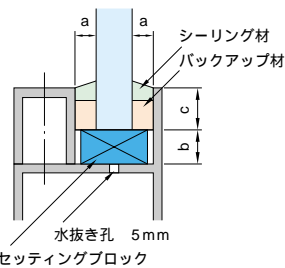
各種クリアランス・かかりしろは、JASS-17（日本建築学会 建築工事標準仕様書、17番、ガラス工事）の数値を採用してください。

参照 P146「板ガラスの納まり寸法標準」

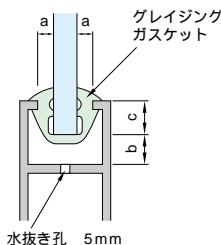
施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合



グレイジングガスケット使用の一般サッシの場合



(注) 記号説明
GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅 a: 面クリアランス
b: エッジクリアランス c: かかりしろ



熱割れのご注意

日射エネルギーの吸収量が多く、一般に熱応力が大きいので熱割れ検討を行うとともに標準施工法をお守りください。

室内側にカーテンやブラインド、その他の遮蔽物があると、ガラス中央部の温度が上昇し、熱割れの原因ともなります。カーテンなどとガラスとの間隔は、最低100mm以上を保持してください。

ガラス面にペンキを塗ったり、紙を貼ったりしないでください。

ガラスの室内側に反射フィルムを貼ると、一度透過した日射が再度ガラスに吸収され、ガラスの温度が上昇するので、熱割れの検討を行ってください。

空調装置の吹き出しエアーをガラス面に直接当てないでください。また、熱のこもりやすい構造は避けてください。

PCカーテンウォールなどにサッシを直付けする構造は、ガラス面内温度を大きくして熱割れ上、きびしい条件となります。熱線吸収網入、線入板ガラスをご使用になる場合には、特にご注意ください。

ガラスエッジ部に傷があると熱割れの原因になりますので、つやはま欠け、ヒビ等のないクリーンカットされたものをご使用ください。切断面に糸面取りなどの研磨をする場合は、120以上の研磨仕上げにしてください。ガラスがサッシに直接触れることは避けてください。

その他、ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にご使用いただくために」の「熱割れに関するご注意」をご参照ください。



設計・施工上のご注意

「熱線吸収板ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。

サッシには、雨水や結露水の水抜き孔を設け、浸入水は速やかに排除できる構造にしてください。ただし、ガラス面に流さない様にしてください。ガラス面に流しますと、汚れが目立ちます。場合によっては、汚れが取れなくなることもあります。

その他、ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にご使用いただくために」をご参照ください。